

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第2回中央地区まちづくり会議				
事務局 (担当課)		中央区役所 地域振興課 本庁地域まちづくりセンター 電話042-707-7049(直通)				
開催日時		令和元年6月18日(火) 19時00分~21時				
開催場所		中央公民館コミュニティ室				
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	2人(本庁地域まちづくりセンター)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 地域活性化事業交付金について (2) まちづくり懇談会について (3) 今年度の中央地区まちづくり会議で取り組むテーマについて (4) その他 3 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(は委員の発言、 は申請団体の発言、 は事務局の発言)

1 開会

牛尾会長あいさつ

2 議題

(1) 地域活性化事業交付金について

地域活性化事業交付金申請事業に関するまちづくり会議での意見聴取について、事務局から資料に沿って議論の視点等を説明の後、令和元年度申請事業である1事業の事業説明を申請団体から行い、質疑応答に移った。

「第5回中央地区子どもと大人 共に学ぶ宇宙教室」/ 中央地区宇宙教室実行委員会

主な意見・質疑

本事業について、5年目以降の継続効果と2分の1を超える申請に関しての委員の皆様からのご意見を伺いたい。

○先ほど、(申請団体からの説明の中で)「成果」という言葉があったが、成果は何なのか。毎年、まとめ誌という形で出てくることは素晴らしいことだが、これは成果ではない。

定員の中の子どもや大人のメンバーが毎回大幅に変わっていることは事実である。そのところは成果であり、宇宙のことについて学んで頂いている人が増えていることは間違いない。

成果としては、まずまとめ誌を見てもらえとお分かり頂けるとおり、毎回事業を実施した際に参加者にアンケートを取っているが、その際、参加者からは多くのコメントを頂いており、それが一つの成果を語っているといえる。また、講座を重ねるごとに子どもの参加者の質問のレベルが上がってきているところからも成果を感じる。総じて、まとめ誌を読んでもらえば、この事業の効果や意味がお分かりになっていただければ、この事業の効果や意味がお分かりになっていただければと思う。また、もっと広がりを持たせた方がよいという意見に対してだが、博物館で実施する際には公開講座にしており、200名まで参加できる形を取っている。このため、公開講座という形で、広く参加を呼び掛けることは出来ると思う。また、最近では近隣の地区の方からも参加させてほしいという意見があるため、今年度は9地区の連合が集まる場で、他の地区からの参加者を募ることについて提案していこうと考えている。

○本事業の第3回から第4回にかけて参加者数が29名増えたとあるが、一方でそれだけ増えてもあの程度だったのかという感じがした。そして、昨年の実績が93名でありながら、今回の予算の申請額が120万円ということであり、一人当たりには掛ける金額が大きいとみえる。とすると、周知方法や、あるいは受け入れ態勢があまり良くないと言わざるを得ない。また、小学生でも中学生でも博物館に行く授業はあると思うが、そういった学生を取り込むといった作業はしていないのか。

一つ事業拡大の方法として、昨年からは子どもの参加者の枠を1年生まで広げ、29名の子どもの参加者を募ることが出来た。

○では、リピーターも多いということか。

毎年楽しみにしているリピーターもいる。29名の中には新規の人とリピーターが混在している。

○これだけ良い事業であるにも関わらず、なぜ参加者が増えないのか。

定員を設けているためである。

○なぜ泊りのオプションツアーが必要なのか。日帰りではだめなのか。

色んなところを見て見聞を広げるという意味がある。また、日帰りの範囲では天の川や星が見える場所がないため、このような方法を取っている。

○そういった中身の議論をしている訳でなく、もっと幅広く参加が出来るようにしたらいいのではないかとやっているだけである。言い方が違うだけで、たとえば、一泊二日の宿泊を伴うものにしないで、2回に分けてやったらいいのではないかという提案の話をしている。参加者からは良かったという声は耳にはしているが、ただ、参加者が固定化されてしまっている気がして、それが勿体ないことだと感じる。また来年も同じような議論になる気がするが、それをもうやめたい。だからこそ、別枠で市なりが中心となって進めていくように検討して頂かないと勿体ないことだと感じる。と同時に、この事業だけでなく、もっとJAXAの良さを知ってもらう取り組みが必要である。この地域活性化事業交付金を活用すると中央地区だけの取り組みになってしまう。

中央地区に配分されている地域活性化事業交付金を活用した事業にも関わらず、中央地区以外の人を受け入れてしまうと趣旨が違ってきてしまう。だからこそ、市の方で別途計画して別予算で実施してもらう方が良いと思う。

○前向きに捉えて巣立ってきた事業をどう大きく育てるのかという意味合いで、地域活性化事業交付金という枠から外して捉えてみるということをやってほしいということだ。また、地区ごとに配分された予算である250万円を消化しきれない現状があると伺っている。だとしたら、全体の予算をどう上手く活用するかということや、地域で育ってきた事業をどう全市に広めていくのかという視点を持って検討してほしいと言っている。

やはり地域政策担当者としても、地域活性化事業交付金の予算の規定に従って、どうしても（４年目以降の事業に関して）２分の１の交付率を強調してくる気持ちは分かるし、私達としてもそれについては順守していきたい気持ちはあるが、どうしても資金が掛かるものであるから今議論に出ているように相模原市の教育的文化事業として別枠予算を働きかけてもらいたい。我々も地域活性化事業交付金の趣旨に沿うような形で事業運営をしている。ただ、このまちづくり会議の場で委員の皆様がそのようなご意見でご賛成頂ければ、より広げていくことも可能かと思う。

最終判断は区長であり、まちづくり会議での審議が地域活性化事業交付金の交付決定にあたっての重要な判断材料となるため、一通りの議論は尽くしていただきたい。これまでの皆様の議論を伺い、本事業については中央地区だけでなく、全市的に行っていくべき事業であるとの認識があることは承知をした。昨年度からも委員の皆様から地域活性化事業交付金について様々なご要望を頂いているところも認識はしているが、区役所としては制度をつくる権限はないため、然るべき担当部局に対して皆様の声を適切に届けていくことが私達の役割であると考えている。現在、市民局で検討している案については、まだ皆様にお伝えできる段階ではないが、来年度から市民協働推進基本計画なども策定される中で、今年度中に地域活性化事業交付金の位置付けなどもお示しできるかとは思っている。また、話を戻すが、本事業については、昨年度から交付率が２分の１となる中で、西武信金からの補助金を活用してもらうなど事業継続のためにご尽力頂いていることは承知をしている。ただ、まだ制度の見直しがされていない状況であり、少なくとも今年度については現行のルールを踏まえて頂かなければならない。私達も皆様に十分議論して頂いた内容を持ち帰り区長に報告を行う義務があるため、審査項目に沿った十分な議論を尽くしていただくよう、改めてお願いをしたい。

昨年度は自助努力として西武信金の補助金を活用したが、今年度はそのような他の助成金収入がないため、地域活性化事業交付金を当てさせていただきたいと考えている。また、今年度に関しては講師謝礼が上乘せにならざるを得なくなっており、その分の経費が重なって申請額が 60 万円となっている。今年から例年講師を引き受けて頂いている大川先生が JAXA の所属を離れ個人事業主となったことで、その分の講師謝礼は上乘せしなければならないだろうということになった。また、大川先生が JAXA の所属だったため、他の講師を呼ぶ際にも大川先生の助力を借りていたところだが、今回は今年度講師を行っていただく吉川先生と大竹先生にも正式に東京本部を通して講師依頼を行った。こうした先生たちが使用する教材等の消耗品が今年度は増えるのではないかと予想をしており、その分の予算を計上している。

要綱の基準については承知をしている。ただ、私達としてはこの事業が地域

の魅力作りをする事業だと認識しており、こうした地域活性化に寄与する文化事業は3年で終わるものではなく、今後も継続して行っていくことに意義がある事業であり、費用もしっかりと確保することでより多くの人に広めることが出来るものと考えている。このため、2分の1を超える申請についても、そのための費用であることを理解していただきたい。また、2分の1を超えた費用について今後どうしていくのかということについて市に対しては、地域活性化事業という枠から一步踏み出し、中央区全体の事業として他の補助金制度の創設も含めて検討をしていただきたい。

これまで皆様から頂いた新たな交付金制度を創設してほしいといったご意見等については、昨年度のまちづくり懇談会の内容からも承知をしており、今年度において制度改正等を含め所管課において対応を検討しているところである。しかし、現行の制度としては従前の内容と変更はないため、今回や今後申請される事業に対しては、このまちづくり会議においてこれまでと同様の審議を行ってもらわなくてはならないことをご理解いただきたい。

○まちづくり会議での審議において、申請個票の他に収支予算書がないと、なぜ申請額が多いのかという議論ができない。予算として足りない分の経費はどこから集めているのか。また、今年度はまだ交付金の決定が下りていないにも関わらず、チラシなどの印刷を開始しているとのことだが、これはフライングではないのか。今から事業を進めていかなければならないことは理解した上で意見を申すが、では交付決定が下りなかった際には誰がその費用を負担するのかといった問題が生じると感じる。そのため、こういった問題に関しても、収支予算書を確認ができれば簡単に解決できることだと考える。来年度からは収支予算書も添付された形で審議を行ってほしい。

議論をするための資料として提示することについては全く問題ない。

結果

本事業は今年度で5年目を迎えるが、継続してきたことで益々広がりを見せており、教育的文化事業として地域の活性化にも寄与しているため、より多くの市民参加を促すために不可欠な資金であることを踏まえ、申請内容のとおり事業を推進することで中央地区まちづくり会議では了承された。

(2) まちづくり懇談会について

事務局から資料に沿って、令和元年度まちづくり懇談会の概要等を説明した。また、今年度の懇談テーマの提出を依頼した。

主な意見・質疑

○今年度は市長が出席し、市政概要等についての説明がなくなるとのことだが、これは議論の中身をより充実させようとする意図ということの理解でよろしいか。
お見込みのとおり。

○先ほど、事務局からのご説明にあった通り、市長については公務等の都合上、出席できない場合があることについては理解できるが、中央地区に関しては万難を排して出席できるようにご配慮いただきたい。

(3) 今年度の中央地区まちづくり会議で取り組むテーマについて

事務局から資料に沿って、今年度のまちづくり会議で取り組むテーマ及びテーマ別に割り振りをした委員名簿の説明を行った。

主な意見・質疑

○自治会加入促進チームの委員に自治会連合会の委員が多い印象があるが、他の団体等の委員ももう少し加えた方がよいのではないか。

○何が原因で自治会加入が低下しているのかということ突き止めなくてはならない。自治会連合会以外の選出団体から自治会加入促進チームの委員に入ってもらえれば、より多様な意見を伺うことが可能である。そういった意味でも、多様な団体からメンバーを募ることは有益である。

佐藤委員(富士見小学校 PTA)を自治会加入促進チームへ移すことに決まった。

○交通事故問題のチームリーダーに関しては、現在、交通安全協会中央支部の支部長を担われている木口委員にお願いし、同じく交通安全協会の守屋委員と中心となって担っていただきたい。

公園問題チームでは健康器具の設置だけでなく、「子どもとシニアの居場所づくり」というテーマで進めていくという理解でよいか。

主に高齢者の居場所づくりを視野に入れている。

○公園問題を例にあげて今後の進め方について提案すると、中央地区全体の公園に関する課題を整理してこつこつ積み上げていきたい。その中で、大きな課題としては健康器具を備えていくというのを何回かに分けて実施をしていくのもよい。また、このまちづくり会議の成果としてこういった器具が地区の公園内に設置してあるのか、どんな特徴があるのかといったことを整理して市民の方に伝えるだけでも大きな効果があるものであり、来年度以降にも繋がるものだと考える。

< 次回以降について >

プロジェクトチームごとに今後の進め方について議論をしていくこととなった。

(4) その他

中央高齢者支援センター澤畔委員から「令和元年度高齢者地域情報誌」「地域づくり部会だより」を配布し、内容等について説明を行った。

3 閉会

以 上

第2回中央地区まちづくり会議(6月18日開催)出席委員名簿

	氏名	役職	選出団体名等	出欠
1	牛尾 良一	会長	中央地区自治会連合会	出席
2	高橋 征彦		中央地区自治会連合会	出席
3	中川 清一		中央地区自治会連合会	出席
4	田坂 正子		中央地区自治会連合会	出席
5	徳田 文夫	副会長	中央地区社会福祉協議会	欠席
6	鎌倉 轟		中央地区民生委員児童委員協議会	出席
7	小金澤 近雄		中央地区民生委員児童委員協議会	出席
8	今井 千春		中央地区老人クラブ連合会	出席
9	岡野 博		中央地区青少年健全育成協議会	出席
10	松田 正則		中央地区健康づくり普及員協議会	出席
11	島村 春男		中央地区防犯協会	出席
12	守屋 守		交通安全協会	出席
13	岩下 孝二		中央地区連合自主防災隊	欠席
14	中西 智子		中央小学校PTA	欠席
15	力石 武史		弥栄小学校PTA	欠席
16	佐藤 匠		富士見小学校PTA	欠席
17	岡本 和茂	副会長	中央公民館	出席
18	浦上 裕史		中央地区内商店街	欠席
19	澤畔 正裕		中央高齢者支援センター	出席
20	代田 昭		公募委員	出席
21	秋葉 秀二		公募委員	出席
22	倉澤 良明		公募委員	出席
23	木口 榮		公募委員	欠席
24	鳥海 千秋		公募委員	出席
25	井之上 久		公募委員	出席